

## 普及活動情勢報告（令和7年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### 働きやすい環境づくりを目指して ～JA土佐くろしおにら部会出荷始め総会～



目慣らしをする生産者

11月14日、JA土佐くろしお営農販売部会議室で、にら部会出荷始め総会が開催され、生産者15人が参加しました。

農業改良普及課は、トイレ、手洗い場等の整備を支援する農業就業環境整備事業費補助金の紹介を行い、女性や若者が働きやすい環境を整えることの重要性を呼びかけました。

生産者からは、事業を活用して従業員が働きやすい環境を整備したいという声があり、2人が事業申請しました。

農業改良普及課は今後も、関係機関と連携し、事業の円滑な活用支援に努めながら、雇用労働力の安定的な確保を目指します。

### 審査会場に農産物が勢揃い ～JA土佐くろしおJAまつり農産物展示品評会～



審査をする普及指導員

11月15日、JA土佐くろしおが主催するJAまつり（11月16日開催）農産物展示品評会に出点された農産物の審査を行いました。

農業改良普及課とJAで、管内の主力品目であるミョウガ、キュウリ、シシトウ、ニラを始め、サヤインゲン、ピーマン、花きなど285品の形や色、全体の揃い等について審査し、知事賞、農業振興センター所長賞、優秀賞など27点を選定しました。

農業改良普及課は引き続き、各品目担当が一丸となって管内農産物の品質向上への支援を行っていきます。

### 環境負荷低減につながる農業活動を支援 ～みどり認定の取得支援～



みどり認定制度を説明する普及指導員

12月2日、農業改良普及課において、水稻のみどり認定相談者1人に対して認定制度の説明を行いました。

農業改良普及課から、みどり認定制度が意味する環境負荷低減活動の意義とともに、農業を維持していくための経営の視点の重要性を説明しました。

相談者は、有機農業法人での従事経験を基に自営での有機農業を目指され、環境負荷低減活動を伴った農業生産に高い意欲を示しており、これらの説明を理解し、認定取得に前向きな姿勢を見せていました。

農業改良普及課は今後も、農業における環境負荷低減活動を支援し、みどり認定の取得を応援していきます。

## 新規就農者の門出を祝福 ～ J A土佐くろしお令和7年度新規就農者激励会～



自己紹介する新規就農者

12月9日、道の駅かわうその里すさきにおいて、J A土佐くろしお4Hクラブ主催の新規就農者激励会が開催され、本年度、新たに就農された5人のうち2人を含む、15人が参加しました。

新規就農者の自己紹介と記念品贈呈の後、農業改良普及課から、農業の基礎知識と題して栽培に対する考え方やライフプランを説明し、経営相談や家族経営協定に関する情報を提供しました。また、J A営農販売部からは、J Aの各事業や部会組織、販売流通のしくみ、今後のサポート体制等を紹介しました。

農業改良普及課は今後も、J A・市町、関係機関と協力して新規就農者の経営安定を支援していきます。

## 甘長とうがらしの今作を振り返って ～ J A高知県津野山土佐甘とう部会反省会～



説明を聞く生産者

12月16日、J A高知県津野山経済課で、土佐甘とう部会が反省会を開催し、生産者8人が参加しました。

農業改良普及課からは、尻腐れ果の発生状況と対策、‘甘長娘’の品種特性調査の結果について報告しました。

複数の生産者から、「尻腐れ果の重点対策時期にあたる梅雨明け直後にカルシウム資材を散布する」という声が挙がりました。

農業改良普及課は今後、関係機関と連携して個別面談を実施し、個々にできる対策を共有して指導を行っていきます。